

あきる野市と大和リース株式会社との包括連携協定に基づく
打合せ（第1回） 記録

日時：令和8年9月1日（火）午後1時から2時50分まで

場所：あきる野市役所庁議室

1 年間の取組方針・スケジュールについて

- ・大和リースから既に包括連携協定を締結している他自治体の活動スケジュールについて説明があった。

自治体A：PPP導入セミナーの実施、2か月に1回の定例会、年4回の定期相談会等

自治体B：PPPセミナーの実施（他市事例等）、月1回の定例会、定期相談会（課題が少ない場合は随時対応）等

- ・本市のスケジュール案は、自治体Bを参考に大和リースが作成し、次回打合せで協議する。

2 取組体制について（担当部署の確認）

- ・あきる野市：企画政策課
- ・大和リース：東京本店自治体担当

3 PPP導入セミナーについて

- ・セミナーの内容は市と事前調整の上、内容を決定する。他市の事例では、まずPPPの成功事例を紹介し、公民連携の定義について説明を行っている。
- ・セミナーの実施時期は両方で調整し、決定する。

4 個別案件について

（1）市有地と民有地を合わせた土地活用を行っている事例

あきる野市）市有地と隣接する民有地を組み合わせ、土地活用を行っている事例について把握しているものがあるか。

大和リース）事例を確認して次回の打合せで回答する。

（2）市有地の活用事業者の公募に伴う条件設定の事例

あきる野市）市が保有する御堂中西側市有地について、令和7年度にサウンディング型市場調査を実施し、民間事業者による土地活用の可能性を把握したところである。

今後、活用事業者の公募を考えているが、民間事業者にとって、手を挙げやすい公募にするために、どのようなことが考えられるか。

大和リース）共同体の構成などに時間を要するため、公募期間は少なくとも6か月程度が望ましい。立地条件が厳しい市街化調整区域であることを考えると多くの応募を見込める案件ではないと思われる。民間事業者との対話を重ねながら公募に当たっての実施要領を作成するのが適切であると考えている。

（３）ふるさと工房五日市の活用の可能性

あきる野市）市では、ふるさと工房五日市について、軍道紙の保存・活用事業を維持したまま、民間事業者による施設活用の可能性を模索しており、令和８年度にサウンディング型市場調査を実施した。大和リースが当施設を活用するとしたら、どのような可能性が考えられるか。

大和リース）【アイデアの提供有り】

（４）小規模の市有地等の活用事例

あきる野市）市が保有する小規模の土地や庁舎内のＡＴＭの撤退に伴う空きスペースの活用を検討しているが、他自治体の事例で参考になるものはあるか。

大和リース）【アイデアの提供有り】

事例を確認し、次回打ち合わせで回答する。

小規模の土地の利活用としては、官民連携に特化したホームページ（横須賀市等）を開設して、常時活用の募集をしている自治体もある。このような事例も今後の参考になると考える。

あきる野市）本市は、サウンディング等を実施する際の情報の発信力が弱く、課題であると考えている。大和リースはどのような方法で自治体のサウンディング情報等を入手しているのか。

大和リース）営業担当者のやりとり等で情報を得ている。また、ＰＰＰ／ＰＦＩ協会のホームページに掲載される情報を定期的に確認するようにしている。

５ その他

- ・相談記録は「包括連携協定における活動記録シート」として記録する。
- ・次回打合せは、令和８年１０月８日（木）午後１時３０分から実施する。